



歩み始める人へ～いつも隣に多くの人へ～

4月を迎え、自分は何を大切に、どんなことに力を注ぐのか、考える人も多いと思います。

皆さんはご存じでしょうか。ヘレンケラーが尊敬する日本の偉人として紹介した塙保己一を。塙保己一は江戸時代後期に活躍した全盲の学者です。日本のさまざまな分野の貴重な文献を集め、正しいものだけを種類別に編纂。「自分の道はこれしかない」と学問の夢を諦めず努力しました。目が見えないため、教師の話や人が読んでくれた内容を耳で聞いて暗記しました。この頑張りには、「好きな道を目指すのは結構なこと」と励ます温かい師匠の言葉や周りの人々の理解と協力がありました。

私たちの周りには、困難を抱えながらも懸命に生きている人がいます。そして自尊心を失わず、夢や希望に向かって努力を続けている彼らの隣には、理解ある誰かの存在があると思われまます。「あの人のあの言葉があったから、一歩

踏み出せた」という経験をした人はたくさんいるのではないのでしょうか。気が付けば、多くの人に支えられていたと自覚することがあります。

人は、人とのつながりの中で成長していくものだと思います。当たり前ようですが、私たちは普段、その大切さを意識しながら励まし合ったり信頼関係を築いたりする機会が意外と少ないのかもしれませんが。だからこそ、この時期から、隣の誰かを意識して歩みを進めてみてはいかがでしょうか。

「若いときは自分のために時間を使い、年を重ねると他の人に時間を使うように」と、ある方が語りました。西脇市には「温かな人情」が日々の暮らしの中に感じられます。これからもその良さを大切にしながら、他者を思いやる心を持ち続けていきたいものです。

市長からの手紙

— 西脇を元気に!! —

147



西脇市長 片山 象三

食文化が育む西脇の魅力

3月に「西脇市最大級のグルメイベント！」を掲げ、日本へそ公園で「肉バル」を開催しました。黒田庄和牛をはじめ、地元産の山田錦で醸した日本酒やイチゴ、最近市内でも店舗が増えているカレーやカフェのほか、キッチンカーなど約50店舗が出店。臨時増便されたJR加古川線で来場された方も多く、盛況のうちには終わることができました。チラシやSNS、ラジオ放送でお知らせしたかきもあり、



西脇市最大級のグルメイベント「肉バル」に市内外から約6千人が来場

多くの皆さんにお越しいただき、本当にうれしく思います。本事業は「食文化の継承」をテーマとする、株式会社アサヒビールとの公募型企業版ふるさと納税に応募し、採択いただいた寄付金を活用して実施しました。応募時には、播州織に従事する女性の好みに合わせて育まれてきた、甘めのスープが特徴の播州ラーメンに見られる本市の食文化の奥深さや、多くが神戸ビーフに認証される黒田庄和牛の肥育を核とした西脇オリジナルの「循環型農業」などをアピールしました。

市制20周年記念事業としてふさわしく、また「日本のへそ西脇地域食材」でおもてなし条例」制定10年の節目を記念する素晴らしい催しとなりました。多くの人に味わってもらいたいグルメをはじめ、西脇には誇れる魅力がたくさんあります。ともに元気なまち西脇市を創ってまいります。



記徳碑原本



飛田安兵衛翁記徳碑



岡之山公園には、今日の播州織発展の基礎を築いた飛田安兵衛の功績をたたえる「飛田安兵衛翁記徳碑」があります。この石碑の文章は、旧5千円札に描かれている新渡戸稲造が考えました。このことは、飛田安兵衛の子孫である飛田勝代が、新渡戸稲造の書生として仕えていた縁によるものと伝わっています。「飛田安兵衛翁記徳碑」の題字は、新渡戸稲造と出身地が同郷の内務大臣、後藤新平であり、文章の浄書は、新渡戸の愛弟子と言われる政治家で実業家でもある前田多門が担当しました。碑文の最後には、地元の人々が安兵衛に感謝する気持ちを歌った和歌が刻まれています。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

79

問合せ 郷土資料館 (☎23 5992)

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー 独身男女の「世話人」として素敵な出会いをサポートー西脇未来予想図の会の紹介ー

西脇未来予想図の会は、結婚を望む独身男女が出会う場を提供し、西脇市での結婚・定住の促進を目的に活動しています。

2月に開催した「第20回出合いのパーティー」では、独身男女26人がイチゴ狩りやビンゴゲームを通じて交流し、5組のカップルが誕生しました。パーティー後もカップルと連絡を取り、世話人としてサポートしていく予定です。



今後も継続した婚活事業を通じて素敵な出会いを提供し、西脇市で新たな家庭を築く喜びを知ってもらいたいと奔走しています。

西脇の自然 625

ギフチョウ

あげはちょう科



日本固有種で、本州のみに生息しています。羽を広げた大きさは5センチ前後で、黄色と黒のしま模様になっています。名前の由来は、明治16(1883)年に岐阜県下呂市金山町で初めて採集されたことから「ギフチョウ」と命名されました。岐阜県では条例で捕獲や採取、殺傷、損傷することが原則禁止されています。

幼虫はカンアオイ類を食草とします。成虫がカタクリの花の蜜を吸う姿は極めて美しく感じます。まさに「春の女神」です。

西脇市でもかつてはあちこちでたくさん見られましたが、里山の開発などの影響で食草も少なくなり、その姿は限られてきました。今後は、里山林の保全をしながら大事に見守っていききたいものです。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】